

# 事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策Ⅱ-1-7  
災害に強い県土づくり

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

河川課長 星野 充孝

電話番号

0852-22-5195

事務事業の名称	ダム建設事業	
目的	(1) 対象	下流域の人命、財産及び河川環境
	(2) 意図	洪水被害の軽減と河川維持用水の確保
事業概要	○浜田川総合開発事業：浜田市街地の洪水被害軽減と河川維持用水確保のために、既設浜田ダムを再開発するとともに第二浜田ダムを建設する。 ○波積ダム建設事業：都治川下流域の洪水被害軽減と河川維持用水確保のために、波積ダムを建設する。 ○矢原川ダム建設事業：三隅川下流域の洪水被害軽減のために、矢原川ダムを建設する。	

## 2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 工事進捗率	目標値	55.8	58.8	61.6	65.4	73.2	%
		取組目標値						
	式・定義 当該年度までの事業費/全体事業費	実績値	55.8	58.8	61.6			
		達成率	100.0	100.0	100.0	-	-	%
2	指標名	目標値						
		取組目標値						
	式・定義	実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%

## 3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	2,288,456	3,161,222
うち一般財源 (千円)	154,002	441,872

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	①順調に進んでおり課題がないため検討していない
---------------------	-------------------------

## 5. 評価時点での現状 (客観的事実・データなどに基づいた現状)

ダム事業全体計画等に基づき事業を執行  
 浜田川総合開発事業・・・浜田ダム再開発工事、付替道路工事の促進  
 波積ダム建設事業・・・仮排水路トンネル工事及び付替道路工事の促進  
 矢原川ダム建設事業・・・用地補償調査及びダム本体・付替道路関連調査の促進  
 ただし、波積ダム建設事業、矢原川ダム建設事業は、ダム検証に約3年を要したことから、事業効果の発現に遅れが生じている

## 6. 成果があったこと (改善されたこと)

浜田川総合開発事業については、浜田ダム再開発工事の進捗、波積ダム建設事業については、ダム本体工事着手に向けた本体実施設計及び付替道路工事の実施に必要な予算がそれぞれ配分された。  
 一方、矢原川ダム建設事業については予算配分が、要望額を下回ったが、次のとおり事業進捗に必要な所要額は確保された。  
 ・矢原川ダム建設事業は、損失補償基準締結に向けた用地調査・地質調査等を実施

## 7. まだ残っている課題 (現状の何をどのように変更する必要があるのか)

- ①困っている「状況」  
 矢原川ダム建設事業  
 ・損失補償基準締結に向けて、補償内容を審議する体制づくりが必要。  
 ・次年度以降の予算によっては計画行程に基づいた事業進捗への影響が懸念される。
- ②困っている状況が発生している「原因」  
 ・事業区域が益田市と浜田市にまたがることからそれぞれの地元協議会との調整が必要となっている。  
 ・次年度以降に波積ダム建設事業はダム本体工事が本格化し、県内のダム事業費がピークを迎える見込みであることから、本体工事未着手の矢原川ダムについては計画的な予算執行が厳しい状況となることが考えられる。
- ③原因を解消するための「課題」  
 ・益田市及び浜田市の調整のうえ両協議会が参加する損失補償基準検討委員会を立ち上げる。  
 ・計画行程内完成に必要な予算確保とコスト削減、工期短縮等による事業進捗の効率化

## 8. 今後の方向性 (課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

・損失補償基準検討委員会において地元との協議を進め、損失補償基準を締結する。次年度以降、計画的な用地取得を図る。  
 ・ダム建設事業の早期完成に向け必要な予算確保とコスト削減、工期短縮に努め、効率的な事業進捗を図る。